

「森林の再生を考える会」が遠野木工団地の 緑地帯の環境整備活動を行いました

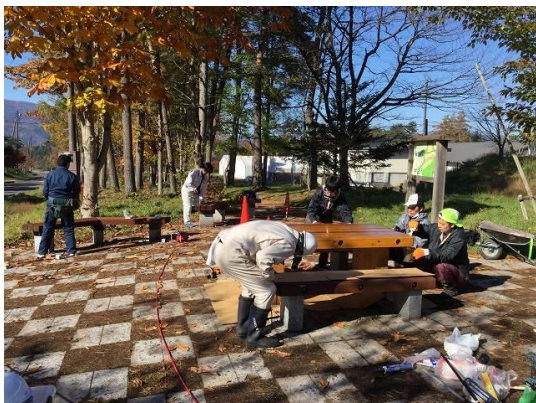
1 はじめに

遠野地域木材総合供給モデル基地（以下、木工団地）は、遠野の木を遠野で加工し、木材の価値を高めて活かすため、林業、木材加工産業、住宅産業などの12事業所が立地していますが、団地の整備から20年以上が経過し、緑地帯内のベンチや木橋などの老朽化が目立ってきました。

このため、木工団地内事業所と市内2製材所で構成する「(協)森林のくに遠野・協同機構」(以下、協同機構)の理事会・定例会の提案により、材料等を持ち寄ってベンチ等を修繕・改修する「(仮称)遠野地域木材総合供給モデル基地環境整備協議会」を平成29年11月に設立し、平成30年2月に名称を「森林の再生を考える会」に決定しました。

2 「森林の再生を考える会」の活動

「森林の再生を考える会」のメンバーは、協同機構の各事業所と行政機関の中堅職員26名で、月1回の定例会で緑地帯の施設の修繕方法等について話し合ってきました。



新しいベンチ・テーブルの設置作業

また、木工団地の抱える様々な課題や事業所間における連携強化などについても話し合い、会員間の情報共有や協同機構のホームページ・パンフレットの刷新を検討するなど、課題解決に向けた取組みを進めています。

3 環境整備活動の内容

環境整備活動は、修繕・改修する材料を残材や市の支給で調達し、各事業所が業務の分野に応じて製材・加工・防腐処理等を担当し、11月3日に会員総出で設置作業と防腐塗装などを行いました。

改修した施設は、ベンチ7基、テーブル・ベンチセット2基、渡り橋1箇所、東屋1棟で、木工団地の関係者だけでなく広く一般住民も利用してもらうようPRしていきます。

4 おわりに

「森林の再生を考える会」は、会員の連携による活動が木工団地内各事業所の活性化につながるものと期待されており、当センターでは引き続き会の活動を支援することとしております。



活動後の懇親会はジンギスカンで